

科目名称：	心理学（ビジネス実務学科）	
担当者名：	柴田 英登	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>「心理学」とは、その名の通り人の心や行動についての学問です。この講義では、動物としての「ヒト」、そして社会的・文化的生物である「人」の、一般的な特徴や傾向について理解することが目的です。心を知ることは、自分自身や身近な他者を理解することでもあります。日頃の学業や人間関係、これからの社会人生活をより豊かなものとしていくために、心理学の基礎を学んでいきます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>①動物としての「ヒト」の心のはたらきについて基礎的な知識を得る ②社会的な「人」について理解を深め、身近な例から考えられるようにする ③自分自身の行動や生活について、心理学な視点から説明できるようにする</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	○
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)	60		20	20	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 臨床心理士	《経験年数1》 10年

課題ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
専門知識の活用	講義で得た知識同士を組み合わせる複雑な思考ができています	講義で得た知識を適切な理解で使用することができています	不適切な部分はあるが講義で得た知識をある程度使用している	講義で得た知識を使用できていない
文章力・説明力	専門知識を平易な表現の中に組み込んだ説明が可能である	身近な出来事についての心理学的な説明が可能である	教科書的な出来事に対して、専門知識を使った説明が可能である	語彙が不足しており、出来事に対する説明が困難である

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 心理学とは	「心理学」に対する自分のイメージをまとめておく。	20分
第2回 自分について考えてみる～性格検査体験～	「気質」と「性格」の違いについてインターネット等で調べておく。	20分
第3回 感覚・知覚～ものの見え方、感じ方～	人の感覚器官(五感)の特徴について調べておく。	20分
第4回 記憶のしくみ(記憶実験の被験者体験)	記憶実験をします。よく寝ておくように。	20分
第5回 学習①レスポナント条件づけ	「恐怖」という感情の役割は何か自分なりに考えておく。	20分
第6回 学習②オペラント条件づけ	レスポナント条件について復習しておく。	20分
第7回 動機づけ(モチベーション)	前回のオペラント条件づけとも関連する「学習性無力感」について調べておく。	20分
第8回 対人関係①親子の関わりから始まる	「新生児反射」にどのような種類のものがあるのか調べておく。	20分
第9回 対人関係②人は生涯発達していく	エリクソンの心理社会的発達における青年期の特徴を調べ、自分と関連させる。	20分
第10回 集団と個人	「傍観者効果」について調べ、自ら思い当たることはないか考えておく。	20分
第11回 性格とストレス	第2回「性格」の内容の復習をしておく。	20分
第12回 コミュニケーション①聴く(ディスカッション及び演習)	「開かれた質問」と「閉ざされた質問」の違いや特徴について調べておく。	20分
第13回 コミュニケーション②伝える(ディスカッション及び演習)	前回内容「聴く」について復習しておく	20分
第14回 心が疲れてしまった時は	これまでの自分のストレス対処は何かあったかを考えておく。	20分
第15回 睡眠について	睡眠の役割について考えておく。	20分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、予習・復習の上で自分の考えを文章としてまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業への積極的関与(意見や質問、取り組み姿勢など) 20%、提出物(毎回の感想など) 20%

課題に対するフィードバック

定期試験(レポート提出の予定)の評価については、希望者には事務局を通してフィードバックします。毎回の授業での感想提出にもコメントをつけてフィードバックをしますので、授業理解度の参考にしてください。

教科書・参考書

教科書： 指定しません。毎回の配布資料をもとに授業を進行します。
参考書： 参考資料やプリントは適宜授業内で配布・紹介します。
自分でも勉強したい学生は「心理学・入門」サトウタツヤ・渡邊芳之著 有斐閣アルマ の購入をお勧めします。